

ニューズレター雪氷北信越

No.78 2001年4月10日
(社)日本雪氷学会北信越支部発行

目次

<案内>

- ・第14回北信越支部総会および研究発表会・製品発表検討会（5/19,加賀市）
- ・第7回雪形ウォッチングのお知らせ（6/2-3,松本市周辺）

<報告>

- ・新潟地区積雪調査法講習会（2/24,長岡）
- ・第6回全国学生のための信州雪崩講習会（3/5-6,白馬村）

<その他>

- ・韓国へ“塩”を送るの記

<案内>

第14回北信越支部総会および研究発表会・製品発表検討会のお知らせ

日時：2001年5月19日（土） 11:00～17:00 終了後に懇親会を予定しています。

場所：石川県加賀市中央公園内 セミナーハウスあいりす（別紙の地図参照）

アクセス：加賀温泉駅からタクシー5分（1200～1500円程度）。相乗りでおいで下さい。

宿泊：1泊 3,700円（税込、食事別）

学会関係者の相部屋でご利用いただきます。

浴衣150円、タオル100円、カミソリ30円

館内にレストランがあります。

5月15日(火)までにFAXでお申し込み下さい。

問い合わせ：中谷宇吉郎雪の科学館 神田 Tel.:0761-75-3323 Fax:0761-75-8088

：セミナーハウスあいりす Tel.:0761-73-5524 Fax:0761-73-5525

予稿集：発表予稿集掲載の「雪氷北信越21号」を当日配布します。

（日本雪氷学会北信越支部会員：無料，非会員：1000円）

参加申込および予稿原稿の締め切りは、4月16日(月)です。書式などについては前号の

ニューズレター（No.77）を参照してください。

予稿原稿、参加申込の送付先：

943-0193 上越市稲田1-2-1 中央農研 北陸研究センター（旧北陸農業試験場）

気象資源研究室 横山宏太郎 Tel.: 0255-26-3234/ fax: 0255-24-

8578

<案内>

第7回雪形ウォッチングのお知らせ

今年も雪形ウォッチングの季節が近づいて来ました。今回は、初回に戻り、雄大な北アルプスの山々に描き出される雪形観察の旅を企画しました。有名な白馬岳の代かき馬、白馬乗鞍のニワトリ、鹿島槍の鶴と獅子、五竜の武田菱、爺ヶ岳の種まき爺さん、常念岳の常念坊、蝶ヶ岳の蝶などの雪形が望めるはずです。さわやかな信濃路の春を楽しみませんか。夜は雪形ミニシンポジウムもあります。参加ご希望の方は下記まで、ご連絡ください。

記

日 時：2001年6月2日（土）～3日（日）

場 所：長野県松本市から白馬村にかけて、北アルプスに描き出される雪形を望む

主 催：国際雪形研究会・日本雪氷学会北信越支部

参加費：未定

申込先：〒305-0006 つくば市天王台3-1 防災科学技術研究所 納口恭明

TEL: 0298-51-1611 FAX: 0298-51-1622

e-mail: nhg@ess.bosai.go.jp

〒948-0013 十日町市川原町614 森林総合研究所十日町試験地 遠藤八十一

TEL: 0257-52-2360 FAX: 0257-52-7743

e-mail: endo81@ffpri.affrc.go.jp

<報告>

講習会報告 新潟地区『積雪調査法講習会』

2001年 2月24日（土）、新潟地区積雪調査法講習会が文部科学省長岡雪氷防災実験研究所において予定通り実施された。今回は通常コースの講習に加えNHKアナウンス部から

受講申し込みがあり、特別コースを並行して設定した。受講者数は通常コース16名（会員1、一般7、学生8）、特別コース15名であった。今冬は平年並みの積雪があり開催に不

安がなかった。当日は積雪約1メートルで午後からは雪も降る講習会日和であった。

通常コースは 午前は積雪の測定法と測定器の取り扱い方の講義と研究所見学が実施され、午後は野外実習で、積雪断面観測、含水率、硬度、剪断応力、雪崩ビーコン等の実習が行われた。講師は遠藤八十一支部長、佐藤和秀氏、山田穰氏、和泉薫氏、河島克久氏、竹内由香里氏が担当した。特別コースは納口恭明氏と石坂雅昭氏が担当し、午後1時半から4時半まで雪に関する基礎知識、雪崩・雪形の解説、所内見学が実施された。最後に活発な質疑応答がなされた。後日NHKに感想をお聞きしたところ、「分かりやすい講習内容と解説で大変好評であった」というコメントを頂いた。なお、良好な講習環境を提供してくださった長岡雪氷防災実験研究所の東浦所長と山田、石坂両室長に深甚の謝意を表します。1990年以来、修了証交付者は延べ164名に達した。(田村盛彰理事記)

＜報告＞

第6回全国学生のための信州雪崩講習会

講師 : 新田隆三 (信州大学農学部教授)

開催日時 : 2001年3月5日、6日

場所 : 長野県白馬コルチナ国際スキー場

参加者 : 10名

主催 : 信州大学演習林研究室 (日本雪氷学会北信越支部との共催行事)

今年で6回目を迎えた講習会は、大雪の降る中、緊張感漂う北アルプス広域消防本部の救助訓練を目の当たりするところから始まった。訓練には見学、一部参加ということで臨んだが、特筆すべきは雪崩花火の実演である。参加者が見守る中で炸裂すると、轟音に続き人々のざわめきが流れた。他には雪崩救助犬の投入や地元消防団のスカッフコールなどが行われた。

講習会2日目は埋没体験からスタートした。毎年実施しているが参加者の表情は非常に複雑であった。これには新田教授も自ら埋没され、スカッフコールで雪の下からの反応を聞きながら掘り出した。ゾンデを用いた搜索訓練でも教授が遭難者役を務めてくださって、ゾンデで埋没者を捉えた感覚を直に教えていただいた。また、雪底の発達したところで雪底断面観察とルッチブロックテストも行った。前日の大雪が降ったあとに一歩足を踏み入れると、30cmくらいの雪の板がスッと切れ落ちていった。

初日の晩は参加者の交流の場となった。冬山、山スキーに始まって釣り、サイクリング、酒など、アウトドア志向の者同士で話に花が咲いた。『いざ山へ・熱きハートもて』体験重視、手作りの講習会であった。

(信州大学演習林研究室 戸田直人)

<エッセイ>

韓国へ“塩”を送るの記

中央農研北陸研究センター（旧北陸農試） 横山宏太郎

この冬のある日、新庄の阿部 修さんから電話が来た。「以前に、農業用ハウスの雪害について報告をしていましたよね」といわれる。

1999年1月、富山県でハウスが多数倒壊する被害が出た。富山県で調査された被害実態に加えて北陸の他の県からも情報をいただき、支部大会などで状況の報告をした。その時の被害の特徴として、富山県では、資材フィルムを貼ったままのハウスは無事だったが、貼ってないハウスに被害が出た。これは常識に反することで、不思議に思い、骨だけのハウスの着雪を調べてみようと思いながらそのままにしているのが、実は気になっていた。

詳しく調べたわけでも、その道の専門でもないのですが、と答えると、韓国の研究者から、この冬に韓国では大雪によるハウスの倒壊で大きな被害が出たので、なにか情報はないか、との問い合わせがあったのだという。

私の報告は役に立たないだろうが、幸いに北陸農業試験場には先輩方による研究蓄積がある。それを送ることで、多少は協力できるだろう、と考えて OK した。すると阿部さんは、「ではよろしく。敵に塩を送ることになるかもしれませんけどね」といわれた。

敵に塩を送る、なるほどそうも言える。韓国では日本向けの野菜の生産が盛んになっている、といったテレビの報道を数日前に見たところであった。ハウスの多くはそのためではないか。近年は輸入野菜に押され、日本の野菜農家の状況は苦しい、という話も聞いている。調べてみると、韓国からの生鮮野菜の輸入量は、1997年の約4千トンから2000年は約3万トンと大幅に増えている。この勢いはまだまだ続くのではないか。

とはいってもなにしろここは上杉謙信の地元である、送らないわけにはいかぬ、と気取ったわけではないが、私は“塩”として数編の関連論文のコピーを送った。先方からは礼状が届いた。

ところでこの冬は、国内でもハウスや果樹棚など農業施設の雪による被害が多数報告されている。施設の被害は農家にとって経済的に大きな負担となる。研究の蓄積があるだけで安心してしまわずに、成果の普及も含めてもう一度この問題を見直す必要があるのかもしれない、と考えているところである。

日本雪氷学会北信越支部ニューズレター

原稿送付・問い合わせ先：小南靖弘，横山宏太郎

〒943-0193 新潟県上越市稲田1-2-1 中央農研北陸研究センター（旧北陸農試）気象資源研究室
tel.: 0255-26-3234 / Fax: 0255-24-8578 / E-Mail: comy@affrc.go.jp

※次号のニューズレターは2001年6月10日発行予定です。こちらの原稿は5月20日頃までにお送り下さい。

